

出向く宮農レポート

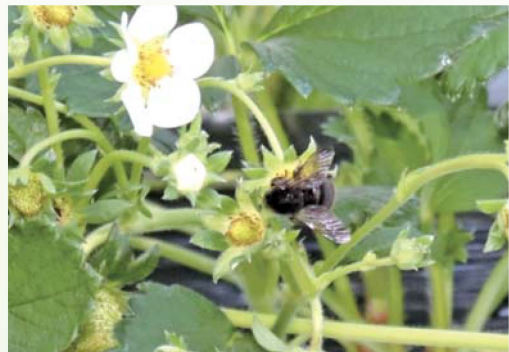
いちご部会編

新たな取り組みで
秀品率UPを目指す!



いちご部会担当 宮農部営農指導課
佐野 公一

いちご部会に所属している近藤崇之さんの「コンドウ農園」では、「かなみひめ」や「かおり野」「恋みのり」「よつぼし」など他ではあまり見ることのできない品種を栽培しています。今回は11月下旬の様子をレポートします。



ハウスの中では授粉のためハチが飛び回っています。ハチは寒さに弱いため、巣箱ごと発泡スチロールに入れて保温し、活発に動けるよう工夫しています。また、今年は大粒でジューシーな「かなみひめ」の秀品率を上げるため、近年研究発表された授粉用のハエ「ビーフライ」を試験導入しました。厳寒期でもハチより活発に活動し、動きがやさしく花や実を傷つけないため、奇形果が出にくいのが特徴です。👆



ハウス栽培では病害虫のチェックが欠かせません。病気やダニが発生するとハウス全体に広がってしまうため注意深く観察しています。👆

これは「かおり野」という品種です。早生種で12月中旬からいちご狩りで楽しむことができます。

酸味が少なく、さわやかな甘さとジューシーな果汁が特徴です。また、いちご農家を悩ます炭そ病の発生が少ないため近年栽培する農家が増えています。近藤さんは「品種選びも減農薬につながる。より良いいちごを食べてもらうために様々な品種に挑戦していきたい」と話していました。

秀品とは贈答用にも使用されるような品質の高い商品です。



炭そ病とは

カビの一種により発症する病気です。高温で発生し、ハウス栽培のいちごでは定植後に発症しやすく被害が広がると枯死してしまいます。